

柳建土第 517 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

柳井市長 河内山 哲朗



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成20年9月19日国道企第37号で依頼のあったことについて、別紙のとおり回答します。

- ・生活幹線道路は、物流や経済活動、通勤・通学、医療等の救急活動、防災活動などさまざまな地域の主要な道路として重要な役割を担っているため整備を推進すること。
- ・公共交通機関が整備されている都市部に比べ、地方部は移動手段が自動車に限定されているため道路への依存度が高い。従って、地方部の道路整備は必要不可欠な社会基盤と考える。
- ・限られた財源の中で全ての道路整備要望に対応することは困難な状況にある。地域間の格差解消のため地方部への配分割合を高めるなど実情に即した適切な措置を講じていただきたい。また、道路特定財源が一般財源化されようとするなか必要な道路財源の確保をお願いする。
- ・昨今、三位一体改革などによる財源不足から、生活に密着した道路の維持管理が困難な状況になっており、道路の維持・修繕対策が緊急の課題となっている。については、維持管理費等を対象とした助成制度の創設を検討していただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

幹線市道の整備改良を計画的に推進するとともに、地元住民との協働による「ふるさとの道整備事業」や住民主体による生活道路を整備する「生活道路整備原材料等支給制度」によって身近な道路整備の推進に取り組んでいます。

加えて、一般国道188号柳井バイパスや地域間を結ぶ県道柳井上関線・伊陸大島線などの主要県道、県営広域農道整備事業など国や県との連携によってアクセス道路等の整備を計画的に進めています。

○課題

・「ふるさとの道整備事業」、「生活道路整備原材料等支給制度」は、近い将来、高齢化や過疎化などにより地元住民との協働の担い手の確保が出来ない地区も出てくると予想される。

・本市は、山間部、半島部、沿海部、離島と多様な地勢を有していることから幹線道路の整備が遅れている。

・柳井地域は、高速交通体系から乖離し、地域の交流と連携を進める地域高規格道路や国道などの幹線道路の整備促進が強く求められている。

○市道等の生活道路については、接続・連絡する県道、国道バイパス等の幹線道路の整備や交通安全の観点を考慮しながら新設改良を計画的に進める。

○産業や観光といった分野での都市間連携と交流を推進するため国や県をはじめ民間事業者を含む関係機関と連携し、高速交通体系へのアクセス向上、幹線道路等の整備、都市間交通路線の確保を促進する。

○日常的な交通手段の確保が難しい地域では、小規模で機動的にサービスを提供できる多様な主体による新しい交通システムを検討する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施設の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

山口県柳井市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・一般国道188号柳井バイパス	・柳井市中心部の交通渋滞の緩和や交差点の混雑解消 ・通勤・通学や買い物等の利便性の向上 ・地域産業活動の活性化 ・主要県道柳井上関線とのアクセス	